

預言者登場～エリヤ～

シリーズ～旧約聖書入門～

2012/7/8

北イスラエル王国の王たち

名前	治世	
ヤロブアム	22年	北王国初代の王
ナダブ	2年	家臣バシヤの謀反により死亡
バシヤ	24年	ヤロブアムの罪を繰り返した
エラ	2年	家臣ジムリの謀反により死亡
ジムリ	7日	オムリとイスラエルの軍に包囲され 自害
オムリ	12年	サマリアを購入し、首都とした
アハブ	22年	北王国史上最悪の王。妻イゼベル はシドン人

アハブ王

「オムリの子アハブは彼以前のだれよりも主の目に悪とされることを行った。彼はネバトの子ヤロブアムの罪を繰り返すだけでは満足せず、シドン人の王エトバルの娘イゼベルを妻に迎え、進んでバルに仕え、これにひれ伏した。サマリアにさえバルの神殿を建て、その中にバルの祭壇を築いた。アハブはまたアシェラ像を造り、それまでのイスラエルのどの王にもまして、イスラエルの神、主の怒りを招くことを行った。」 列王記上16:30-33

預言者エリヤ登場

■「預言者」

- 神の代弁者として語り、行動し、生きる人
- サムエルが最初の預言者と言われるが、モーセは最高の預言者とも呼ばれている

■エリヤは大干ばつを預言した

- ティッシュベ人エリヤはアハブに言った。「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしが告げるまで、数年の間、露も降りず、雨も降らないであろう。」17:1
- バアルとアシェラは天候を支配する神（農耕の神）と信じられていた

主はエリヤを養われた

- ケリトの川のほとりで
 - 鳥が朝夕、パンと肉を運んできた
- サレプタのやもめのところで
 - 最後の小麦を食べて息子と死のうとしていたやもめのもとに行き、それをエリヤが食べたが、その後「壺の粉は尽きることなく、瓶の油はなくならな」かった
 - やもめの息子が病気で死んだが、エリヤが祈ると息子は行き返った

カルメル山の対決(18章)

- 干ばつになって3年目, エリヤはアハブ王に, バアルの預言者らをカルメル山に集めるよう告げた
 - 妻イゼベルはバアルの預言者450人, アシェラの預言者400人を養っていた
- カルメル山でエリヤはまず民に問うた
 - 「あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。」18:21

火をもって答える神

- 祭壇の上に雄牛を置き、どちらの神が火(雷)を下すか試そう、とエリヤは言った
 - 「『そこであなたたちはあなたたちの神の名を呼び、わたしは主の御名を呼ぶことにしよう。火をもって答える神こそ神であるはずだ。』民は皆、『それがいい』と答えた。」24
- バアルとアシェラの預言者は体を傷つけて祈ったが何も起こらなかった
 - 「真昼ごろ、エリヤは彼らを嘲って言った。『大声で呼ぶがいい。バアルは神なのだから。神は不満なのか、それとも人目を避けているのか、旅にでも出ているのか。恐らく眠っていて、起こしてもらわなければならないのだろう。』」27



主は答えられた

- イスラエルの部族数に従って12の石で祭壇を築いた
 - エリヤは祭壇のまわりに溝を掘り、溝に満ちる程祭壇に水を注がせた
- エリヤが祈ると火が下り、いけにえの雄牛、薪、石、溝の水までなめ尽くした
 - 「これを見たすべての民はひれ伏し、『主こそ神です。主こそ神です』と言った」39
- その後エリヤが祈ると、大雨が降った
 - 主は天候を支配する神であると証明した

この出来事が教える真理

■主を信じるなら徹底的に！

- 「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」マタイ6:24

■敵の数におびえてはならない！

- 「神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」ローマ8:31

■信仰の積み増しをしよう！

- 「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。」ヘブライ11:6